役立てよう、もう一度
大きく拡がるリサイクル運動
地域ぐるみの対応で資源を大切に

毎日大量に出されるゴミの中にも数多くの資源が含まれています

ゴミといえば、汚い、臭い、などのイメージが浮かびますが、実際はどうでしょうか。

一般家庭から出るゴミの約半分は台所などの生ゴミですが、残りの半分は資源として再利用できる新聞や雑誌などの紙類、空き缶類、ビン類などです。ゴミの再利用〟は資源の有効利用になるほか、ゴミの減量で清掃・処理費用が少くてすみ、同時に環境美化にもつながります。今号では、資源の有効利用、いわゆるリサイクル運動について考えてみました。

〝資源〟を捨てていませんか

ゴミの量は、わたしたちの生活水準の向上とともに年々増加し、これからも減ることはないといわれています。

ところが、このゴミの中にも鉄分、空き缶、空きビン、古紙、プラスチックなど、まだまだ再利用できる貴重な資源が数多く埋もれています。これらの〝資源〟も元をたどれば、そのほとんどは輸入に頼っているのが実情です。

貴重な資源を一度使っただけで捨ててしまうというのは、資源のムダ使いであるとともに、もったいない話です。

〝ゴミの再生利用〟を進めるには、利用技術の開発はもちろんですが、それ以上に問題となるのはその回収ではないでしょうか。現在、市町村や地域住民による回収ルートのほかに専門の回収業者などによる回収ルートがありますが、いずれの方法で回収するにしても皆さんの協力がなくては効率的な回収や再生利用を行うことはできません。

みんなの力で資源の有効利用を

当市では、家庭から出されるゴミの収集は燃えるゴミと燃えないゴミに分けて収集する「分別収集」を行っています。

昨年度は、可燃物の収集量は一万五千四百㌧余り、不燃物は二千二百七十㌧にものぼりました。このうち不燃物と可燃物の焼却残灰は、市之瀬最終処分場に埋めたてられます。ここでは不燃物を細かく砕いて減量させた後、磁力選別機で取り除かれた鉄分を有価物として売却しています。昨年度は五十八㌧、十七万円余りが売却されました。

これは鉄分だけですが、わたしたちが何気なく出すゴミの中にもたくさんの有価物が含まれているのです。ゴミの減量と再資源化を進めることは「資源有限時代」に生きるわたしたちに課せられた責務といえるのではないでしょうか。

全校あげて廃品回収　小合中生徒会

左から、お話を伺った川瀬生徒会長、諸橋副会長、吉田副会長、本間書記長

「勤労の喜びを知り、より良い生徒会活動を送る資金を得よう」という方針で毎年一回、お盆過ぎに廃品回収を行っている小合中学校生徒会にお話を伺いました。

回収は校区を二つに分けて二日がかりで行われます。生徒会では、前もって案内文書を各家庭に配布して協力をお願いし、リヤカーを使って各家庭を回り、古新聞、雑誌、ボロ布、金属類、ビン類に分別された廃品を回収していきます。

「地域的な特徴として農機具関係の廃品が多数出ます。今年はバイクも出ました…」

といいます。収益金は十四万円、市からの交付金は登録団体の中で最高の四万六千七百七円となりました。

また「部落によっては朝の七時前から回収を行うところもあって大変です」と苦労もされていますが、収益金は部活や学校の備品などに当てられ、有効に使われています。

子供会活動の補助に　東島子供会

鈴木子供会会長

老人クラブが行っていた廃品回収を引き継いで十年余りになるという東島子供会会長の鈴木籾夫さんにお話を伺いました。

廃品回収は年二回、春と秋に行っているそうです。トラック四台を使って部落内を回収しますが、「古新聞や雑誌がほとんどですね。先日行った回収では、古紙だけで千五百㌔になりました」といいます。

回収で得られたお金は、子供会の活動であるキャンプやスキー大会、小・中学生歓送迎会などに補助しています。これからも回収活動は続けていくそうですが、「部落の人の協力があるからできるんですよ」と古新聞や雑誌などを貯めていてくれる人たちの協力を強調しています。

また回収の際は、「まだ使えるような物が出ることもあるんですよ。こんなときは、希望者に販売して子供会の活動資金にしています」と物を大切にする姿勢がうかがえます。今回の奨励金交付制度は「回収で得られたお金にプラスされるので、助かりますし、当てにしています」と歓迎しています。

収益金は有効に　金沢町二・三・四東町地域PTA

左から、お話を伺った中林PTA会長、会計の堀さん、明間副会長

収益金がPTAの年間予算の約三割を占めるという金沢町二・三・四丁目、東町地域PTAの皆さんにお話を伺いました。

毎年三回程度行われる廃品回収は、役員の方が中心となって行われています。ゴミステーションに出してもらった廃品を役員の方が業者のトラックに分乗して回収していきます。古紙が中心だそうですが、先の回収では自動車も……。

収益金は主に子どもたちの活動資金に使われますが、「今年度は青少年健全育成資金として、スポーツ用品の購入費を設けました」と子どもたちの非行防止にも配慮しています。

また「廃品回収は子どもたちの活動資金に補助するために行われるのだから、わたしたちにとってのリサイクルとは、廃品がお金となって子どもたちに返ってくることですね」と地域の人たちの理解と協力を呼びかけています。

〝ポイ捨て〟は資源の無駄遣い

ジュースやビールなどの缶飲料は年々増え続け、昭和五十四年には約九十二億個も作られています。このように缶飲料が増えたのは軽くて便利、衝撃に強い、冷えやすく温めやすい――などの理由からです。しかし、持ち運びに便利なため、〝ポイ捨て〟されやすいという欠点もあり、全国的に大きな問題になっています。この空き缶にはスチール缶とアルミ缶がありますが、アルミ缶は〝電気のかたまり〟といわれるほど「再生資源」として高い価値があります。

アルミ缶を回収し、再利用する場合、新たにアルミの地金を作る場合に比べて二十七分の一のエネルギーですむという、大きな省エネ効果があります。このアルミ缶の再資源化は年々進み、昭和五十四年度では約五億個（製造量約二十億個の四分の一）でした。

また昭和五十六年に環境庁が行った調査では、アルミ缶だけでなく、空き缶の再資源化を実施している市町村は全体の五二・六％と半数を超えています。

国道403号線での空き缶回収

アルミ缶がアルミを作ります。

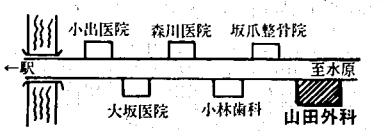
空き缶回収で五千個を回収

さる九月二十四日、空き缶の投げ捨て防止を訴え、空き缶回収作業を行いました。

これは市民の皆さんの協力を得て行われるもので、昨年に引き続き四回目になります。国道や県道など六路線を四～五人の班に分かれて回収を行いました。二時間にわたる作業の結果、回収された空き缶は五千個、重さにすると五百八十㌔にものぼりました。

環境美化はもちろん、資源を有効に利用するため、空き缶は決められた場所に捨てましょう。

お買物、ご用命は市内で

駐車場完備


胃腸・皮膚・肛門(ぢ)・泌尿・X線
山田外科医院
心身の健康は居合道で。指導いたします

内科・小児科・レントゲン科
大坂医院
新町1丁目6－12　TEL(4)5122

室内装飾・美術表装・襖・壁・額
表具　一心堂
一級技能士 訓練指導員　鈴木正義　本町3　☎2-2035